



すべての人に、食べ物を。

Food for all people

Annual Report 2012



今、日本で賞味期限が切れていないにも関わらず
捨てられる食品は、年間300～400万トンにも上ります。
それは日本のお米の生産量の約半分にもなります。

平成24年度 農林水産省「食品ロス削減の取組」より、事業系廃棄物のうち可食部分と考えられる量

たとえばこんな理由で捨てられてしまいます。

商品の売れ残り 在庫	包装の破損 表示ミス	規格外 余剰農作物
3分の1ルール 製造から賞味期限までの期間を3分の1に区切り、小売店への納入までと消費者に販売するまでのそれぞれ3分の1の期間が過ぎた食品は廃棄されたり返品されたりしてしまう。		

さまざまな理由によって
膨大な食べ物が
捨てられている一方で、
食べ物に
困っている人がいます。

日本国内で貧困線以下で生活している人が

約 **2,000** 万人以上 （厚生労働省調べ）
▼

つまり  **6** 人に **1** 人 います。

（厚生労働省「平成22年国民生活基礎調査の概要」の相対的貧困率16.0%を基に、16%＝約1/6として換算）

セカンドハーベスト・ジャパンでは、
フードセキュリティ※に欠ける人が

約 **230** 万人
いると見積もっています。

※社会生活の中で安全かつ十分に栄養のある食べ物を得られること

すべての人に、食べ物を。

Food for all people.

私たちは、
日本初の
フードバンクです。

私たちの名称は、
「すでに収穫された畑から二度目の収穫をする」
という考えに由来しています。

セカンドハーベスト・ジャパンは、
「フードバンク・ジャパン」として活動していた当初から、
人びとを支援する事に従事してきました。

フードバンクとは、食品製造メーカーや農家、
個人などから、まだ食べられるにも関わらず、
さまざまな理由で廃棄される運命にある食品を
寄贈していただき、
それらを児童養護施設の子どもたちや
DVから逃れた方のためのシェルター、
さらに路上生活を強いられている人や
生活困窮者などの元に、届ける活動のことです。

フードバンクの流れ



セカンドハーベスト・ジャパンは、
「すべての人に食べ物を」という理念のもと、
4つの柱で活動をしています。



Harvest Kitchen
ハーベストキッチン
(炊き出し)

生活困窮者を対象に食事を提供する活動です。多くのボランティアの皆さんのご協力のもと、上野公園で300～400人分の食事を提供しています。定期的に参加しているレギュラーボランティアさんと一緒に献立を考え、初回のボランティアでも楽しめるよう、皆でアイデアを出して工夫を重ねています。毎週金曜日に簡単な調理などの仕込みを行い、翌日土曜日に仕上げた料理を温かいうちに提供しています。



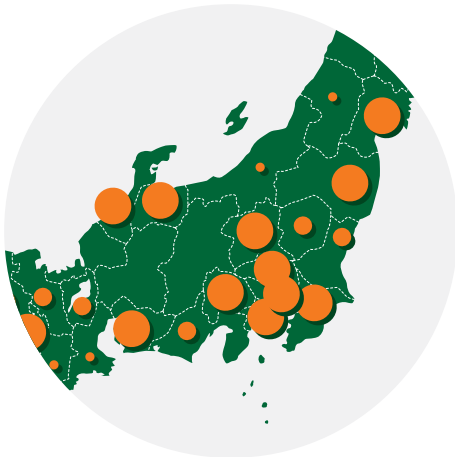
Harvest Pantry
ハーベストパントリー

一人親家庭や高齢者、災害被災者、失業中の方、難民、滞日外国人など様々な理由で食べ物が必要な人たちに、米や調味料などの食品類を2HJの事務所で直接渡したり、遠方へはパッケージを作成し発送する活動をしています。食べ物があるということは一つの安心感を持つことで、この活動に参加したボランティアさんとの交流もそうした安心感に一役買っています。関係団体とも連携し、新しく生活を立て直す人たちが踏み出す第一歩を応援しています。



Food Bank
フードバンク活動

企業や福祉施設、NPO団体などと連携して、自身の品質には問題がなく賞味期限も残っているのに様々な理由で廃棄されてしまう食品を寄贈してもらい、国内の生活困窮者の方々に届けています。毎月、関東では300箇所以上、全国では北海道から沖縄まで400以上の団体へ、各地のフードバンクを通じて食品を提供しています。この活動は食品を寄贈してくださる食品関連企業だけでなく、様々な業態の企業の食品以外でのご協力によっても成り立っています。



Advocacy and Development
政策提言と発展

1社でも多くの企業、1人でも多くの個人に私達の活動を知っていただけるよう取り組んでいます。講演やシンポジウムの開催、食品企業や小売業者による展示会への出展、スポンサー企業のCSR活動への協力、全国各地のフードバンク訪問を通じ、日本で拡大している貧困と食品廃棄の問題を身近な問題だと感じ、食べ物を大切にする思いやりのある社会が実現するように活動しています。また、行政と協力してフードバンク活動を市民や企業に対し普及させています。

これまでの実績

2012年中のボランティア 活動時間

27,510 時間

2012年中に食品を受け取った 延べ人数 (A+B+C+D)

686,233 人

【A／ハーベストキッチン(炊き出し)】18,712人
【B／パントリー(ピックアップ、食品パッケージ通常と東北、隅田川)】35,950人 【C／フードバンク活動(各種施設への直送分含む)】620,000人
【D／石巻(ピックアップなど)】11,571人

2002年から今までの支援金

累計: 614,440,947 円

2002年から今までの取り扱い食品重量

累計: 8,083 トン

※2012年12月31日現在の数字です。



Harvest Kitchen

ハーベスト キッチン

(炊き出し)

生活困窮者を対象に、温かい食事を提供する活動です。

毎週金曜日の準備と、毎週土曜日の食事提供を、多くのボランティアの皆さんのご協力を受けて行っています。

毎回、種類も量も違う食材から何を作ろうか？定期的に参加しているレギュラーボランティアさんと一緒に献立を考え、初回のボランティアでも楽しめるよう、皆でアイデアを出して工夫を重ねています。毎週金曜日に仕込みを行い、翌日土曜日に仕上げた料理を車に乗せて出発。配布場所の上野公園に並ぶ人数によりメニュー配分を考えて準備完了。雨の日も風の日も炊き出しを待っている方がいます。天候などの理由でキャンセルになったことは一度もありません。この活動は参加された皆さんとのチームワークによって実現できています。

2012年度の活動

最後の避難所、旧騎西高校での炊き出し活動を開始

東日本大震災の福島第一原発の事故から逃れ、福島県双葉町から埼玉県加須市の騎西高校に避難してきた方々へ炊き出しを行っています。最後の避難所、と呼ばれたこの場所に震災直後は1,200名が避難生活をしていましたが、2012年12月の時点では約170名(大半は高齢者)が残され、お弁当だけの毎日が続いています。セカンドハーベスト・ジャパンでは2012年5月から月に一回、2012年中では8回、この活動に賛同してくださるボランティアや企業様と協力し、温かい食事を提供しました。2013年もこの活動を継続していきます。

倉庫改装を通して活動の質と参加満足度の向上

炊き出し用の備品や道具類を保管している倉庫を大きく改装し、新たに洗い場を設置。これに合わせて収納場所を案内する表示・ペイントを施し、炊き出しの準備と後片付けの作業効率が向上し、衛生・安全環境も改善されました。これによりスタッフ間で活動を振り返り、次回の活動へと活かす時間の捻出と、ボランティア同士での交流の時間を設けることができました。これからもこうした機会を活かし、参加したボランティアが「楽しかった」「また参加したい」と思えるよう、満足度の向上に繋げていきます。

素早く確実に、ボランティア登録のオンライン化

従来、主に電話やファックス、メールで行っていたボランティア登録が、セカンドハーベスト・ジャパンのWEBサイト上に設置した登録フォームから可能になりました。ボランティア登録の確認や、初回のボランティア参加までの案内プロセスが自動化され、素早く確実なボランティア登録が可能となり、同時に情報管理の効率化と、初めてご登録されるボランティアさんの負担減にもつながりました。なお、このシステムはセールスフォース・ドットコム様のご協力により実現しました。



ボランティアさんの声



誰にでも欠かせない食を届けたい

島村 佳子さん

フードバンクの活動は海外滞在時に知りました。余剰を、必要とする人々に届けるシステムに興味を持っていたところ、日本にもあることを報道で知り、早速応募。食は生きてゆくために必要不可欠なもの。それが脅かされている人々が安心してアクセスできる場所を目指し、微力ながらお手伝いしています。



きっかけは会社のCSR プログラム

ジョナサン・フィールドさん

5年ほど前から会社のCSRプログラムの一環で社員のため意義がある社会的な活動を探し、2HJと関わることになりました。今までにも、多くの社員が土曜日の炊き出し活動に参加しました。そして私個人として2HJの活動を見て本当に感動したため、今でもボランティアとして参加しています。

2012年度の実績

ボランティア参加人数合計(延べ)

7,167人

上野公園と旧騎西高校

炊き出し配給数(合計)

21,922食

今の課題と今後の展望

ボランティアの安全、衛生環境向上のため 2つの取り組み

炊き出し活動で取り組むべき課題は2つあります。1つ目は炊き出し活動に参加するボランティアの安全向上です。限られたスペースで皆様が無理なく、また安全に活動を行えるよう、作業レイアウトや調理器具・機材の置き場を見直していきます。2012年に実施した倉庫の改装は、まずその第一歩目です。

2つ目は衛生管理の徹底とその継続です。これにはスタッフ自身が食品衛生責任者の講習を受講し(2012年の時点でスタッフ3名が受講)、社内への知識共有と、より高い衛生意識の定着を図ります。また、外部から衛生や設備管理のプロを招き、定期的にアドバイスをいただきながら改善計画を立て実行していきます。必要な備品を揃え、作業マニュアルやチェックリストを作成し、毎回の活動で同じ作業環境や衛生環境が保たれるようにしていきます。



Harvest Pantry

ハーベスト パントリー

Photo by Natsuki Yasuda / studio AFTERMODE

一人親家庭や失業中の方、難民、滞日外国人など様々な理由で食べ物が必要な人たちに、米や調味料などの食品類を2HJの事務所で直接渡したり、発送する活動をしています。

2012年度の特徴として滞日外国人と難民の支援数増加が挙げられます。滞日外国人は仕事を減らされ、または解雇により十分な収入が得られず、難民については日本において難民申請者が過去最高を記録、その影響が現れているようです。関係NGOからは「2HJの食料支援が彼らにとって欠かせない支援だ」と言われています。日本人への支援も増加が見られ、全体の支援数を押し上げるものになりました。2HJでは役所やハローワーク、困窮世帯を支援する団体と連携を取り、食べ物を必要としている方々へ届けられるようにしています。

2012年度の活動

パントリーピックアップ

毎週木曜日と土曜日の午後、2HJの事務所では様々な理由で食べ物を必要とされている方に直接食品をお渡ししています。ボランティアで参加した方から食品を受け取り、直接顔を合わせて会話することで、食料をもらうだけではない交流が生まれます。ピックアップに来る人たちの多くは、周囲に頼る人が少なく、孤独感を抱えており、ここでの会話を楽しみに来る人もいます。食べ物を通じて、こうした小さな交流を積み重ねることも、様々な背景の人たちが暮らしやすい社会の一助となっています。

モバイルパントリー（隅田川配給）

モバイルパントリーとは、実施する場所を2HJ以外に移して行われるパントリーピックアップを指します。現在2HJで実施しているモバイルパントリーでは、月2回の頻度を隅田川付近で実施し、主にこの付近で暮らす生活困窮者を対象に、直接食品を手渡す活動をしています。受け取る人たちの多くが調理器具やその環境が無いなどの理由をもっているため、すぐに食べられるものを提供するようにしています。2003年に始めたこの活動ですが、今後は教会、お寺などの協力を得て、定期的配給を広げていきます。

食品パッケージ

この活動では緊急に食料が必要な人たちへ米や調味料、缶詰などを詰めたパッケージを送っています。パッケージを受け取る人たちの多くは日本人で、主に関係機関からの依頼で発送しています。所持金があと数百円しかない、生活保護の申請をしたが受給決定までの食料がない、求職中で次の仕事が見つかるまでなど、食品を必要とする理由は様々です。食べ物があるということは一つの安心感につながります。食品パッケージは新しく生活を立て直す人たちが踏み出す第一歩に役立っています。

ボランティアさんの声



たくさんの食品 笑顔と感謝を添えて 三浦 佳織さん

かねてよりボランティアに参加したいと考えていた時、セカンドハーベストの存在を知りました。炊き出しやパントリーを経験して感じるの、多くの人を介して食品が集まり、様々な人に届く。山盛りの食品を手渡す時、笑顔と感謝が関わった方全員に伝わればいいと思います。



今年で7年目のボランティア活動に 横山 徹さん

当初は、ニュースキン・ディストリビュータのグループでの参加（毎月第二土曜日の炊き出しへの定期的参加）。2年前から土曜日のパントリーピックアップも月一回担当。ワケあって廃棄される運命の食品たち。もらって喜ぶ人の笑顔と感謝に毎回癒され、7年目に突入します。



2012年度の実績

食品パッケージ送付数

※東北向け食品パッケージは除く

1,626箱

ピックアップ合計人数

13,435人

今の課題と今後の展望

子どもの貧困への取り組み バックバックプログラム

2HJでは子どもたちに食べ物を届けるために、2012年よりバックバックプログラムを始めました。アメリカのバックバックプログラムでは、週末に子どもたちが食に困らないように、学校から簡単に食べられるものを渡しています。2HJとしては学校ではなく、DV、一人親支援や学習支援をしているNPO団体にご協力いただき、約408の世帯と120人の子どもたちに食品をお渡ししました。このプログラムでは、家計の一助にとどまらず、子どもと一緒に作ったりするなど、食べ物を通じて様々な効果があったようです。こうした受け手にどのようなニーズがあるか、またどのようにアクセスするかという課題に向き合いながら、2HJではバックバックプログラムを通じた「子どもへの貧困」への取り組みを強化していきます。



Food Bank

フードバンク活動

企業や福祉施設、NPO団体などと連携して、中身の品質には問題がなく賞味期限も残っているのに様々な理由で廃棄されてしまう食品を寄贈してもらい、国内の生活困窮者の方々に届けています。

ある昼の2HJ事務所。郊外のスーパーや倉庫で引き取ったパンと野菜、果物、缶詰、調味料などを満載にしたトラックが戻ってきました。生活困窮者向けに炊き出しをしている団体や、給食をしている障害者支援施設、近隣で活動する他フードバンク団体の人たちが嬉しそうに食品を引き取って行きます。午後は配達へ。食べ盛りの子供を抱える児童養護施設や母子支援施設、元依存症の方の自立支援団体、生活困窮者向けの食堂など様々な場所で、多くの人が2HJから来る食品を待っています。何もしなければ活かされない食品たちを必要とする人達につなげる、私達の中心活動です。

2012年度の活動

本当に必要な人へ

お預かりした寄贈品を、有意義に活用するために福祉施設やNPO団体とのパートナーシップは欠かせません。2012年は関東の300の施設・団体に食品を届けました。2HJがサポートする団体は児童養護施設、母子支援施設、障害のある方の作業所、DVシェルター、路上生活者自立支援団体、依存症更生施設、学外学習支援組織、難民支援組織、地域の福祉事務所、東日本大震災被災地の保育園や自治体など多岐にわたります。食品を提供することで2HJはこれらの団体の社会的な活動を下支えしていきます。

多様化する企業の支援

多くの企業がフードバンクのもたらすポジティブな影響に気づき支援を開始・強化しています。2012年は190以上の企業から、主食、副菜、生鮮野菜、調味料、飲料、お菓子などあらゆる種類の食品の寄贈を受けました。メーカー、商社、小売、宅配業などの食品関連企業のほか、防災備蓄品を寄付して下さる一般企業の数も増えています。また食品以外でも、車両や備品の寄付、倉庫や輸送手段の無償提供、安全運転講習の無償開催など有形無形の支援を下さる企業の存在が2HJの活動の幅を広げてくれています。

フードバンクを支える人達

寄贈品の配送に関しては、現在95%以上をドライバーボランティアさんをお願いしています。多くのボランティアさんは月数回～週数回、活動に定期的に参加してくださり、ご自身の担当コースを持っています。そして福祉施設の皆様と信頼関係を作り2HJの活動の根幹を支えてくださっているのです。その他に重要な事務作業をしてくださる方も含め、昨年の2HJのフードバンク活動に関わるボランティアさんの活動時間は月当たり1,000時間にのぼり、これはフルタイムスタッフ約6人分の労力に相当します。

ボランティアさんの声



ライフワークとして続けていきたい
園田 巖さん

参加のきっかけはテレビのドキュメント番組。それから今年で5年目になり徐々に事務所スタッフの方々から色々と任せて頂き週一回と月一回の定例配送等を行っています。何も問題の無い食べ物を必要としている方々へ直接お届けするスタイルに共感しています。今後もライフワークとして続けていきたいです。



「うれしい!」の一言が励みに
木村 久美子さん

山谷地域で路上生活者支援をしているNPOの活動を通じて2HJを知り、山谷地域にある施設への配送とドライバーズクラブのボランティア活動を行っています。毎週訪れることで、各々の活動内容を把握し、ニーズに合った食品を届けるように心がけているので、「うれしい!」の一言が励みになります。



2012年度の実績

届けた食べ物と飲み物の量

3,512トン

関東での配送先施設・団体数(合計)

300カ所

今の課題と今後の展望

持続的な フードバンク活動に向けて

昨年は寄贈品の管理をより効率的かつ正確・迅速に行うためにQRコードが印刷されたラベルと携帯端末を利用したシステムを導入し、配送管理を電子化しました。また、駐車場を事務所付近に集約することで管理コストを大幅に削減し、トラックの実質稼働時間と保管スペースを増大させました。他にもひとつの配送場所で複数の団体が食品を引き取る拠点作りをすすめたり、寄贈品を2HJを経由させることなく寄贈主より直接施設や団体に送っていただくケースを増やすなど、より少ないコストで、より多くの場所に、より多くの寄贈品を届ける仕組みを広げています。

Advocacy and Development

政策提言と 発展

日本中で 活動しています。

2HJを設立した2002年から、私達はフードバンクを広めるために北海道から沖縄まで日本中を訪ね、地方で新しくフードバンクを始める方々へ様々な形の支援をしてきました。まだ食べられる安全な食品を捨てずに活かす。フードバンク活動は、この社会にとって前向きな代替手段であると私達は信じています。

セカンドハーベスト・ジャパンの政策提言チームはフードセーフティネットの構築とフードライフラインの確保のため、全国各地でフードバンク活動に関するプレゼンを行っています。第5回フードバンクシンポジウムではフードバンク事業の将来についてお話しさせていただきました。これからも組織としての向上をめざし、邁進してまいります。

2012年度の活動

第5回フードバンクシンポジウム開催

2012年10月9日、第5回フードバンクシンポジウムを開催しました。終日のプログラムでしたが、北は北海道から南は沖縄まで110名の方が会場に集まりました。2HJの支援企業として、サントリーホールディングス株式会社様、キュービー株式会社様、アサヒロジスティクス株式会社様から事例報告をしていただきました。また、支援施設からは、母子生活支援施設「睦ハイム」様に提供食品の活用事例をご報告いただきました。シンポジウムの最後には参加者からいただいた質問に対してディスカッション形式で回答しました。年々フードバンクに対する社会的認知度と信用度が高まっていると感じます。1人でも多くの方が日本で拡大している貧困と食品廃棄の問題を身近な問題だと感じ、食べ物を大切にする思いやりのある社会が実現するよう、これからも活動していきます。

2012年の講演と展示活動

政策提言チームでは、貧困や食品ロス問題の1つのレスポンスとしてフードバンク活動を推進し、その認知度を高めるために、様々な機会においてお話しさせていただいています。学校・企業・自治体でのプレゼンや、協力団体主催のイベントに参加することにより、少しでも私たちの活動について知っていただける機会になると考えています。この他にも、2HJは毎年食品企業や小売業者による展示会に出展し、2012年にはFABEX、スーパーマーケット・トレードショーなどにて活動内容を発表し、さらに出展企業のサンプル食品等をイベント終了後に寄贈していただく取り組みも行っています。また政策提言チームでは、広く多くの方々にフードバンク活動を知っていただく機会を提供できればと思い、Earth DayやRocks Tokyo等のイベントにも出展し、活動紹介を行っています。

企業のCSR活動(社会貢献活動)への協力

2HJは福祉施設や個人への食品サポートの他にもスポンサー企業・パートナー企業のCSR活動への協力をしています。これにより、ご協力させていただいた企業の社員間でのコミュニケーションの向上・イメージの向上に繋がるという仕組みです。2012年12月、2HJは最大のスポンサー企業の1つであるニュー スキン ジャパン株式会社様と提携し、社員や会員の方々が東京の児童養護施設の子供達と一緒に、被災地の子供達のためにクリスマス・プレゼントを作って届けるイベントを主催しました。このイベントは、単に社会貢献という面だけではなく、社員のインナーブランディングやコミュニケーションの向上としても有意義なものになりました。ボランティアとして活動参加後、自社のロゴを壁に誇らしげに描いていく方もいます。壁一面の名前が活動参加の喜びを示しています。私達は提携企業のニーズ・目的に合ったCSR活動を提案いたします。



2012年度企業連携実績

2012年度にも、様々な企業と共に多くの連携を行ってきました。

ニュー スキン ジャパン 株式会社様

2006年の3月から現在に至るまで、ニュー スキン ジャパン様から毎月150万円の寄付金をいただいています。そのお陰で2012年も継続して児童養護施設や母子生活支援施設の子供達へ食品を提供することができました。



合同会社西友様

合同会社西友様のレジ募金が2012年7月よりスタートしました。レジにあるカードから支援したい団体を選び、買い物カゴと一緒に入れていただくと、精算の際に希望する金額の寄付ができます。集まった募金は2HJの日々の食糧支援活動に活用させていただきました。



ジェイティ飲料株式会社様

ジェイティ飲料株式会社様が2012年12月より2HJ支援自販機を設置されました。飲料を購入する際、2HJに売上の一部が寄付される仕組みです。購買者がNPOの支援に簡単に参加でき、飲料メーカーのイメージアップと売上向上にもつながる新たな仕組みです。



セカンドハーベスト・ジャパンの 東日本大震災における支援活動の2年間のあゆみ

未曾有の被害となった東日本大震災が2011年3月11日に発生してから、
私たちはこれまでの2年間、多くの支援活動が続けて来ました。
3年目を迎えるこれからも、フードバンク活動と東日本大震災支援活動が続けていきます。

帰宅困難者へ2HJ事務所前で
急遽炊き出し
都内及び近郊の列車はすべてストッ
プ。夜からは“帰宅難民”となった人や
歩いて自宅に帰る人たちのために急
遽スーブの炊き出しを行った。



パートナー団体へ
支援物資を届ける
かねてより協働しているNPO団体 ふうど
ばんく東北AGAINとワンファミリー仙台へ
支援物資を届ける。以降も両団体とは密
接に連携し支援活動にあたる。



フードバンク山梨と気仙沼へ
市内の避難所と
食料配達状況を確認

北は岩手県山田町、
南は福島県いわき市まで
被災地へ定期的に
物資を届ける

4月～

宮城県南三陸町志津川の方々に
“出張炊き出し”を実施
「震災後は誕生日のお祝いをしていなかっ
たけど、ささやかな誕生日会ができた」と、
現地からの声。夕食時に提供したデザート
のケーキはことのほか喜ばれた。



海外から届いた支援物資を
東北へ向けて定期的に届ける

5月～



被災者へ向けた
個人パッケージの送付を開始
毎週木曜日にボランティアのみなさ
まの協力を得て、お米や調味料など
を詰めた約300箱の食品のパッ
ッケージを作り、2HJ事務所から東北
各地のボランティア団体を通じ、定
期的に届ける活動を開始。

宮城県の方々へ
ハーゲンダッツアイスクリームを届ける
ハーゲンダッツジャパン株式会社様からご寄贈い
ただいたアイスクリームを、社員の皆様と一緒に
宮城県の仮設住宅や在宅避難しているの方々へ届
ける。見回り事業や地域の方々同士での交流の
きっかけに。



2012年
9月29日

11月～

石巻に事務所を設置
現地からの支援を開始
支援が必要なご家庭へ個別に対
応できるようフェアトレード東北と
共同で石巻事務所を開設し、食品
を配布。こちらに来ることができな
い方へは物資の配送も行う。(その
後、石巻事務所は2013年3月に同
石巻市内で場所を移転)



食品パッケージ活動を
開始してからの送付数が
13,060個に

～12月



追悼イベントで3,000人分の
炊き出し。当時を振り返る
公益社団法人東京青年会議所主催
の追悼イベントで3.11に行った炊き
出しを再現。震災復興支援のために
継続的支援が必要であることを人々
が忘れないよう、理事長のチャール
ズは岩手県大船渡から福島まで走っ
た。(257km)

2013年
3月11日

6月21日

現在まで

食品パッケージ送付数は
震災直後からの2年間で
14,381個に上り、
現在も支援活動を展開

Adopt a Family Projectで
食品パッケージ送付

Adopt a Family Project はボラ
ンティア参加者が自宅やオフィス
で食品パッケージを詰め、それを
2HJが被災地の家庭に届ける活
動。東北向けとしてはグラクソ・ス
ミスクライン株式会社様の協力で
初めて実現した。

これまでの実績

合計発送回数
187回

食品パッケージ発送数
14,381個

集まった寄付金
143,133,689円

2011年3月11日から2013年3月11日まで

2011年
3月11日
東日本大震災
発生

3月13日
2HJスタッフ
CNNクルーに同行して仙台入り

3月14日

3月15日
続々と届く支援物資を東松島と
その周辺の避難所へ届ける
「一刻も早く届けて!」というメッセージと
ともに2HJへ届く貴重な品々を、大勢のボ
ランティアが次々に仕分け、現地の避難所
に食品・生活物資を届ける。



3月18日

3月23日
南相馬市まで寄贈された
食品・物資を2t車で届ける

3月23日



Tohoku Relief Work

東北支援活動

東日本大震災発生の当日、帰宅困難者へ配った温かいスープから始まり、2日後には東北へ。
石巻市に拠点を置き、これまでに14,318箱の食品パッケージを送るなどの支援をしてきました。

宮城県石巻市は津波被害が大きかった地域です。平成25年5月31日時点、石巻では仮設住宅7,153戸整備され、うち6,992戸に15,755人が入居、民間賃貸借上住宅(みなし仮設)は4,991戸で13,123人が入居されています。また、様々な理由で仮設住宅等に入居できなかった在宅被災者が数多く居ます。セカンドハーベスト・ジャパンでは石巻被災者生活支援プロジェクトを立ち上げ、東京からは食品パッケージの発送、石巻に設置した拠点では現地企業や東北で活動するNPO団体 ふうどばんく東北AGAIN、フェアトレード東北と連携して活動してきました。

2012年度の活動

東北向け食品パッケージ

南相馬市および福島第1原発周辺の市町村の被災者・避難者へ向けて、米や調味料などの食品をひとまとまりにしたパッケージを発送しています。この活動は毎回、参加ボランティアを募り、月2回の頻度で東京・浅草橋の2HJにて作成、1回あたりの活動で約250～300箱の食品パッケージを東北へ向けて発送します。それぞれのパッケージにはパントリーコーディネーターを務めた佐久間ルビーの発案で、お手紙を入れています。「今でも忘れずに応援してくれる人がいる」というパッケージを受け取った方からのお便り。箱に詰められた皆様のお気持ちが届いています。

地元NPOとの協働 多角的な支援

石巻プロジェクトでは、訪問巡回事業を行っている地元のNPO法人フェアトレード東北と協働し、被災により生活が困難または困窮されたご家庭に月1回6ヶ月間食品パッケージを提供する生活再建への支援を行ってきました。この食品パッケージは、石巻に設置した事務所で直接お渡ししたり、事務所へ来る移動手段を持っていない方へは個別に配送を行いました。また、炊き出しを行う団体やサロン活動を行う支援団体へ食材や飲料を提供するとともに、仮設住宅や地域の自治会が独自に行う見守り活動へも食品を提供し、事務所以外の配布拠点という形で間接的に被災者の生活支援を行っています。

東北からのメッセージ



現在、民間賃貸
借上げ住宅に居住
佐々木 義弘さんと
奥さん

震災後、私達は県外で避難生活を送り、しばらくしてから石巻に戻ってきた時はそれまでのような生活設計が出来ずにいました。震災前の住宅ローンが重くのしかかっており、マイナス思考だった時に食糧支援を受けたので非常に助かりました。あの震災から2年2ヵ月が経ち、今になっては「前に向かって立ち直っていかないと!」という思いがあります。



飲まず食わずの日から
鈴木 とし子さん

震災後は3～4日間は飲まず食わず。震災後は周りに店がなくなり、あったとしても品数が少なく食料品を買うのが困難でした。そんな時に食糧支援を受けてものすごく助かりました。当時、水道水は薬剤を多く入れられていたそうで飲み水には適しておらず、特にお米と水が非常に助かりました。スパゲティや桃缶も嫁夫婦に分けたりして使いました。ありがとうございました。



トリマーの仕事再開
に向けて
布施 友美さん

震災直後は何が起ったか分からず、先行きも見えなかった。今でもこの震災は終わっていません。震災後に生まれた息子と一緒に生きていくので精一杯です。セカンドハーベスト・ジャパンから受け取った支援で子供のミルクやお米をいただき本当に助かりました。感謝の言葉しかありません。おかげさまで今はトリマーの仕事を始める準備をしています。

震災直後から2年間の実績

東京から発送した食品パッケージ数

14,318箱

石巻拠点から直接お渡しした
食品パッケージ数

4,663箱

今の課題と今後の展望

継続的支援を目指し体制と連携の強化

石巻プロジェクトは2012年10月まで週末だけの活動でしたが、J.P.モルガン様、ドイツ銀行グループ様からの支援を受け、2012年11月より現地に専従スタッフを置き、平日での活動も可能な体制となりました。これにより、一層被災者の方へ寄り添い、継続的に支援を行える体制となりました。今後は600世帯/月への支援が可能な体制とボランティアの受け入れ態勢を整えると共に、現時点においてもまだこの食糧支援のお知らせが出来ていない方への告知も行っていく予定です。また、食を通じた新たなセーフティネットを構築するため、今まで以上に他の団体・組織との連携を強化し、食糧支援の次の支援が必要な方へのつなぎを行っていくとともに、食品が必要な方へ届けられるように仕組みを作るための勉強会を関係ステークホルダーと行っていく予定です。

支援者からのメッセージ

「食料支援」はホットライン活動に欠かせないもの。

遠藤 智子さん 一般社団法人 社会的包摂サポートセンター 事務局長



「よりそいホットライン」は、国の補助金をいただいて実施している24時間無休の何でも電話相談です。連日3万件を超える電話にはライフラインが停まり、所持金も食料もないという相談も沢山あります。そんな時「食料支援を頼みましょう!」と対応しています。2HJの存在にどんなに助けられていることが分かりません。日本のフードセキュリティは脆弱です。いま最も必要とされている皆さんの活動・挑戦に心から期待しています。

フードバンクネットワークの拡大に期待します。

合田 久輝さん

伊藤 見富法律事務所／モリソン・フォスター外国法事務弁護士事務所(外国法共同事業事務所) 弁護士



2HJとのお付き合いは、東日本大震災直後に被災者支援についての問合せから始まります。以後様々な情報をご提供頂きながら、当事務所の弁護士、職員一同でできる支援を微力ながら継続しています。2HJが日本におけるフードバンクの草分けとして構築してきたノウハウに加え、緊急時の迅速な対応をも活かしてご活躍されると共に、より多くのコミュニティに認識され、フードバンクネットワークが更に拡大する事を期待しています。

私はフードバンク活動が好きです。

矢野 稔さん

植田製油株式会社 常務取締役



6年前にチャールズの講演でこの活動を知り、愛してきた。まだ食べられる廃棄食品の寄贈を食品企業にすすめるのが私の役割。好きでやっていることなので世の為、人の為とも思っていない。自分の為と思っている。恋人に賞賛や謝礼を求める人はいない。ただ愛情が深まるように相手を理解することは必要だ。フードバンク活動を楽しむ私は、食品企業への説得術も磨きたいし、食に困っている人々への理解を深める努力も続けていきたい。

強くて優しい絆創膏に。

大原 悦子さん ライター・津田塾大学教員



みんなが得するというシンプルで前向きなシステムに共感。以来ずっと応援しています。2008年には『フードバンクという挑戦』という本を書きました。フードバンクは絆創膏、所詮は応急処置だと言う人もいます。でも最初は小さな傷口が命を脅かす事態を招くこともあるでしょう。応急処置って大事なんですよ。傷ついた人がすぐ手に入れることができる、強くて優しくて頼りになる絆創膏。2HJはそんな存在であってほしいです。

セカンドハーベスト・ジャパン様と協力企業様との架け橋にJPRレンタルパレットをご提供します。

中村 浩太さん 日本パレットレンタル株式会社 次世代事業PJ



2HJ様の活動において商品が納入される際の手荷役は重労働になります。JPRは納入される商品の積載にレンタルパレットをご利用いただくことをご提案しています。荷降ろし作業が短時間かつ苦労なく倉庫に入庫され、空いたパレットはJPRが回収するという運用を実施しています。少しでも2HJ様の活動がスムーズになるよう、協力企業様と2HJ様の架け橋になれるよう、物流面からこれからも協力していきたいと考えています。

無理なく継続的に、これからもたくさんの笑顔を受けよう お付き合いさせて頂きます！

横塚 元樹さん アサヒロジスティクス株式会社 代表取締役社長



決め手となったのは「無理なく継続的に」というお言葉。食品物流を専門に営む弊社において本業の物流で社会貢献できるお話は非常にありがたく、社員も積極的に取り組んでくれました。弊社従業員の家族向けの物流センター見学会イベントに児童養護施設のお子様を招待した時は、その喜んでる姿に皆涙を流して感動していました。沢山の学びを得られるよう無理なく継続的に、そして積極的にお付き合いさせて頂きたいと考えています。

セカンドハーベスト・ジャパンの広報活動

もったいない食べ物と、生活に困っている人、という2つの大きな社会的課題に関わる2HJの活動。

全国紙やテレビ、ラジオ、雑誌、インターネットという5大メディアに注目され、数々の露出をもたらしました。

食品ロスをもたす商慣習「3分の1ルール」に対して

流通業界の商慣習「3分の1ルール」に対して、2HJはメディア出演での発言やコラムなどで声をあげてきました。2012年10月3日、農林水産省と流通経済研究所、食品業界(製配販)が集まり、これの見直しを検討するワーキングチームの初会合が開かれ、2013年3月には中間報告として「食品ロスを減らせない場合はフードバンクを活用する」など具体的な対策が導かれました。



農林水産省「食品ロス削減シンポジウム」での講演

日本で発生している食品ロスが食料問題や環境問題、経済問題などへ与える影響から、2012年夏に国は農林水産省・消費者庁・環境省・内閣府の4省庁連携で食品ロス削減に取り組む事を決定(2013年2月には文部科学省も)。2013年3月5日と8日には農林水産省「食品ロス削減シンポジウム」が開催、2HJは「フードバンク活動の紹介」というタイトルで講演しました。



メディア掲載(2012年度一部抜粋) 24媒体、広告換算費用で2億円以上

1月18日	東京新聞・中日新聞「ニッポンの女子力<番外編>3・11を機に大企業からNPOへ」
3月13日	日本経済新聞朝刊の首都圏版
3月25日	ACCJ Journal (The American Chamber of Commerce in Japan) 4月号
4月11日	毎日新聞全国版
5月2日	朝日新聞5月2日付千葉版
5月6日	国会へ提出する農林水産省白書にセカンドハーベスト・ジャパンについて掲載
5月9日	「栄養と料理」6月号
6月1日、4日	NHK「特報首都圏」
6月22日	読売新聞朝刊全国版社会面
9月12日	テレビ朝日「スーパー」チャンネル」
10月3日	フジテレビ「スーパーニュース」
10月5日	テレビ朝日「モーニングバード」
11月6日	テレビ東京「ガイアの夜明け」

講演実績(2012年度一部抜粋) 全18講演／聴講者数合計:1835名

2月10日	東京都港区3R推進行動会議主催会議でフードバンクの講演
5月16日	日本PR協会主催 博報堂本社にてPRアワードグランプリ最優秀賞受賞作品プレゼン
7月17日	相模女子大学で管理栄養学科100名にフードバンクとキャリアの講演
7月31日	神奈川県横浜市磯子区消費生活推進委員へ食料廃棄とフードバンクについて講演
8月26日	世界食料デー 栄養士向けセミナーでフードバンク活動と栄養問題について
10月6日～7日	日本広報学会で震災支援と広報活動について講演
10月12日	服部栄養専門学校で講義
10月16日	埼玉県消費生活支援センター 消費生活講座で食料廃棄と食品ロス、フードバンク活動について
11月17日	鳥根県社会福祉協議会「フードバンク推進フォーラム」で講演
11月20日	日本食品科学工学会関西支部「食と震災」について講演
11月27日	武蔵大学社会学部社会学科でフードバンクとキャリアチェンジについて講演

スタッフ紹介



マクジルトン・チャールズ

CEO

この仕事は、一生に一度出会えるかどうかの仕事だと思っています。素晴らしい人達と一緒に、新しいコンセプトをこれまでにないやり方で開拓しているのですから。日本は、私に多くのものを与えてくれました。これが、私の小さな恩返しです。私の元気の秘密は、スパムをたくさん食べることです。



會田 博志

施設管理／パントリー
食品衛生責任者

食う寝るところに住むところ…。何も食べずに生きていくことが、ぼくらには出来ない。食事を作ったり、食べたりが好きだから、この仕事をしています。コンピュータ畑からの転職。猫好き。



黒澤 剛

フードバンク部長

飲食関係のアルバイトや小売店での経験を経て、日常的に当たり前のように余っている食品を何かに生かせないかと思っていて、この仕組みを新聞を見た瞬間にこの活動に一生関わっていこうと思いました。



井出 留美

広報／食品衛生責任者

前職(外資系食品企業広報)では2HJに寄贈する側。震災で、必要な所に食べ物が届かないことにもどかしさを覚え、2HJへ転身。5歳から食に興味を持ち大学院栄養学博士課程へ。青年海外協力隊フィリピンOG。隊員時代の任地で日本の規格外のため廃棄されるオクラを救うフードバンクを開始。



芝田 雄司

石巻プロジェクト担当

新聞で2HJを知り、以前から食品ロスの問題に興味があったので「これはやらなきゃ!」と思い、すぐにボランティア登録。施設への食品配送ボランティアを行う。震災を機に2HJに転職。石巻プロジェクト担当として現地で奮闘中。



菊地 章子

事務局／フードバンク

2007年の夏に、何気なく目を通した雑誌記事よりセカンドハーベスト・ジャパンを知り、魅了される。2008年の冬では、ボランティア活動に初参加、多国籍な人たちとの交流がとにかく楽しい!と実感。2009年春より事務スタッフとして従事。



安田 淳子

パントリー部長／会計

スタッフ最年長。若いスタッフの優しいお母さんの存在をめざしているが、実際は、「いじわるばあさん」に向かいつつある…かも。2009年早春より勤務。



河田 了

フードバンク システム構築担当
調理師・食品衛生責任者

ひきこもり時代にこっそり通った図書館で「フードバンクという挑戦」(大原悦子著)に感動し2HJでフルタイムのボランティアを始める。3.11後スタッフになり社会復帰させてもらった恩返しをすべく業務に励む。



パルマー・セーラ

政策提言と発展

日本の公立中学校に英語教師として3年間務め、上京して以来、社会に貢献したいと思い2HJに入社。美味しい食べ物は文化の壁を超えて人々の心に届きます!そう信じています!



高原 恵

ボランティア・コーディネーター
食品衛生責任者

美味しい食事は世界を平和にできる、という母のもとに育つ。ボランティアの皆さんとチーム一丸となって、毎回楽しく活動しています。土曜日の炊き出しでは主に味見担当!?



杉山 祥子

パントリー

以前は女性と子どものシェルターで働いていました。新しく生活を始める親子にとって、2HJの存在は食べ物以上のものでした。「誰かが気にしてくれている、一人じゃないって思える」そんな声を大切にしながらやっていきたいです。



林 江一

フードバンク 西東京エリア担当

利便性やサービス追求のためにもっともらしい理由を付けて食品が捨てられる…食料資源が枯渇していく中こんなことでホントにいいのかと思います。ちょっとIT関係かじってますのでS/W開発などもやっています。



大竹 正寛

セカンドハーベスト・ジャパン アライアンス

米国在住時にフードバンクの存在を知りwin-winな仕組みに魅了されました。想像以上にやりがいのある仕事で楽しんでいます。現在は日本におけるフードバンクの普及と発展のため公益財団法人セカンドハーベスト・ジャパン・アライアンスの設立に向けて準備を進めています。

役員



マクジルトン・チャールズ

理事長

資金調達者、演説家、日本においてのフードバンキングの促進者、および奉仕活動のコーディネーターとして活躍しています。



柴田 耕祥

理事

セカンドハーベストの運転手として物資を運んでいます。一週間に数回、妻のセイセイさんと共に人々に食べ物を届けています。セカンドハーベストと関東、名古屋、関西においての企業や組合を繋いでます。



ジョン・ベイルズ

理事

アリサンオーガニックセンター／テングナチュラルフーズの創設者兼オーナーであるジョンは、自身の食品輸入業者・販売者としての経験や知識に基づいた価値あるアドバイスを長い間に渡ってセカンドハーベストに提供しています。アリサンでは、顧客が買い物の際にセカンドハーベストに物品寄付をするとアリサンがそれと同額の物品寄付をするという“善意の共有”を行っています。これにより、ジョンは他の企業に対する先導となっているのです。



配島 一匡

理事

大卒後、水産商社に勤めていたが世界の食料問題と経済格差に関心を持ち退職。宮崎の農業生産法人を経てセカンドハーベスト・ジャパンのスタッフに。約4年フードバンク部門の統括として食品企業との折衝、新規提供先の開拓、各地の団体設立支援を担当。その折に3.11が起こり先遣隊として3月14日に仙台入りし、国内外の物資のコーディネーターを担う。現在は仙台市に住まいを移し、伴走型支援を理念とした共生地域創造財団の事務局長として活動を続けています。



ガスキンス・リーランド

理事

2005年7月からアジアにおいてノースカロライナ州の海外投資誘致を担当し、米国における投資プロジェクトに関してアジアの企業をサポートしています。また彼はアジアの企業や政府に対してノースカロライナ州商務省及び州知事室を代表してさまざまな業務を行っています。プロフェッショナル・アドバイザー・ボードの最初のメンバーとして、2HJが財務モデルや成果測定規準を作る際や事業計画の更新をする際に、米国フードバンクの例を参考に中心となって活躍してくれました。

FAB フード・アドバイザーボード

食品企業や関連企業の担当者が集まり、フードバンクや食品業界に関するアイデアを共有する場です。この集まりは、2HJの新しい取り組みについて有益なフィードバックを出すだけでなく、寄付を検討している新規企業にとって2HJの活動を知る最初の入り口にもなっています。



PAB プロフェッショナル・アドバイザーボード

この集まりは、海外からの外国人駐在員が集まり、彼らのネットワークやビジネス上の経験を駆使して、ビジネスのやり方に沿った2HJの成長を手助けするものです。外部者によるリアリティチェックとなるだけでなく、2HJのマネジメントと発展を促進するアドバイスを提供してくれています。



2012年度中に寄付や食品、物品の寄贈、ボランティア参加、また物流面での支援など、様々な形で活動を支えてくださった皆様の中から一部をご紹介します。

食 品 サ ポ ー タ ー

 アサヒ飲料株式会社	 サントリーホールディングス株式会社	 キュービー株式会社	 株式会社壱番屋	 ハインツ日本株式会社	 コストコホールセールジャパン株式会社
 キャンベルジャパン株式会社	 キッコーマン株式会社	 日本生活協同組合連合会	 三菱食品株式会社	 合同会社 西友	
日本ケロッグ合同会社 / 株式会社シジシージャパン / ダノンジャパン株式会社 / 株式会社モスフードサービス / ヒーシュタントジャパン株式会社 大塚食品株式会社 / 正田醤油株式会社 / 日本水産株式会社					
MIE PROJECT / 株式会社ニチレイフーズ / ケンコーマヨネーズ株式会社 / バルシステム生活協同組合連合会 / ハーゲンダッツジャパン株式会社 / 株式会社大地を守る会 / 株式会社ミトク 東洋水産株式会社 / 日仏貿易株式会社 / 株式会社マルハニチロ食品 / 合同会社ドール / 株式会社カタログハウス / 株式会社カナエフーズ / 月島食品工業株式会社 オタフクソース株式会社 / ヤマサ醤油株式会社 / ネスレ日本株式会社 / 株式会社 ヨックモック / JA全農たまご株式会社 / 株式会社 鮎忠 / デリカフーズ株式会社					

資 金 サ ポ ー タ ー

 ニュースキンジャパン株式会社	The Orinoco Foundation / BNYメロン / J.P.モルガン / キャンパスブラザーズファームス Fresh Pacific Fruit & Vegetable, Inc. / Give2Asia / 合同会社 西友 / モルガン・スタンレー 特定非営利活動法人 TABLE FOR TWO International / Kenneth Okumura / Bierer Wolfgang / 山田 達也
	ブルームバーグ / 聖アルバン聖公会 / シスコシステムズ合同会社 / Kei Sato / キュービー株式会社 / ゴールドマン・サックス証券株式会社 / ドイツ銀行グループ インディアナ日米協会 / リンクレーターズ東京オフィス / グリフィス・ラボラトリーズ株式会社 / 公益財団法人庭野平和財団 / ジェネオン・ユニバーサル・エンターテイメントジャパン合同会社 DHL / 社会福祉法人 島根県社会福祉協議会 / Running in Tokyo / ロバート・ウォルターズ・ジャパン株式会社 / ブリティッシュ・エアウェイズ MS&ADインシュアランス グループ ホールディングス株式会社 / TEN NANA株式会社 / アズビルみつばち倶楽部 / 株式会社損害保険ジャパン

その他のサポーター

 ALISHAN	 MORRISON & FOERSTER LLP REGISTERED ASSOCIATED OFFICES OF ITO & MITOMI モリソン・フォースター外国法事務弁護士事務所 伊藤 見富法律事務所(外国法共同事業事務所)	 アサヒロジスティクス株式会社	 日本バレットレンタル株式会社
 株式会社 ヴァリエゲイツ	 株式会社セールスフォース・ドットコム	 三越伊勢丹グループ労働組合 三越伊勢丹フードサービス支部	村上 弘剛

収支報告 (2012年1月1日から2012年12月31日まで)

(単位:円)

科目(経常収支の部)		金額	
I	経常収入の部		
1	会費・入金金収入		
	入金金収入	6,000	
	会費収入	9,000	15,000
2	補助金等収入		
	助成金		9,747,136
3	寄付金収入		66,159,099
4	その他収入		
	雑収入		723,776
	経常収入合計		76,645,011
II	経常支出の部		
1	事業費		
	給料手当	23,379,140	
	ハーベストキッチン	2,902,708	
	ハーベストパントリー	3,697,576	
	フードバンク	18,464,005	
	政策提言と発展	13,097,345	
	東日本大震災支援活動	48,084,375	109,625,149
2	管理費		
	給料手当	6,597,630	
	法定福利費	479,264	
	福利厚生費	51,044	
	旅費交通費	1,558,095	
	通信運搬費	637,937	
	賃借料	1862,550	
	消耗品費	1,080,273	
	修繕費	1,191,330	
	印刷製本費	18,486	
	水光熱費	616,222	
	車両費	397,548	
	租税公課	289,982	
	支払負担金	1,658,747	
	雑費	831,920	17,271,028
	経常支出合計		126,896,177
	経常収支差額		-50,251,166
III	その他資金収入の部		
	利息収入	17,608	
	為替差益	1,685,868	
	その他の資金収入合計		1,703,476
IV	その他資金支出の部		
1	固定資産取得支出		
	備品	1,700,475	
	無形固定資産	1,197,000	
	敷金	103,500	3,000,975
	その他の資金支出合計		3,000,975
	当期収支差額		-51,548,665
	前期繰越収支差額		145,828,009
	次期繰越収支差額		94,279,344

科目(正味財産増減の部)		金額	
V	正味財産増加の部		
1	資産増加額		
	当期収支差額(再掲)		
	備品	1,700,475	
	無形固定資産	1,197,000	
	敷金増加額	103,500	
2	負債減少額		
	増加額合計		3,000,975
Ⅵ	正味財産減少の部		
1	資産減少額		
	当期収支差額(再掲)(マイナスの場合)	51,548,665	
	減価償却費	5,527,691	
2	負債増加額		
	減少額合計		57,076,356
	当期正味財産増加額(又は減少額)		-54,075,381
	前期繰越正味財産額		159,637,948
	当期正味財産合計		105,562,567

※注記1 固定資産の減価償却の方法：定率法
※注記2 資金の範囲：流動資産と流動負債を含めている

独立監査人の監査報告書

セカンドハーベスト・ジャパン

理事 マクジルトン・チャールズ・アール 殿

私は、セカンドハーベスト・ジャパンの平成24年1月1日から平成24年12月31日までの計算書類、すなわち、貸借対照表、会計収支計算書及び財産目録について監査を行った。
この計算書類の作成責任はセカンドハーベスト・ジャパンにあり、私の責任は独立の立場から計算書類に対する意見を表明することにある。

この監査に当たって、一般に公正妥当と認められる監査基準に準拠し、必要と認めた監査手続を実施した。

監査の結果、上記の計算書類が、セカンドハーベスト・ジャパンの収支及び財産の状況を適正に表示しているものと認める。
なお、セカンドハーベスト・ジャパンと私との間に利害関係はない。

以上

事業所名称 公認会計士 中島統吾事務所
公認会計士
作成日：平成25年2月25日

中島統吾

セカンドハーベスト・ジャパンが目指すもの

日本のフードバンク活動に参加する企業、NPO、個人等がますます増えてきていることに大変励まされます。
セカンドハーベスト・ジャパンは今後も先進的なモデルを用い、支援を必要とする人たちのために食品を集め、提供していきます。

フードライフライン

食品を提供する企業、受け取る施設・団体がフードバンクをより利用しやすくなるよう、特に流通企業や食品企業などの協力を得ながらソフト・ハード面でのフードバンクのインフラを作ります。

フードセーフティネット

いつでも地域にて緊急食料援助を受けられるような食のセーフティネットを構築します。

新たな取り組み

セカンドハーベスト・ジャパン・アライアンス(2HJA)

2HJAは、中央行政とより密接な協力関係を築き、全国にフードバンク活動を普及させるために設立された一般財団法人です(公益認定申請中)。その使命は、全国フードバンクネットワークを通じて、フードセーフティネットとフードライフラインを構築することです。
加盟団体になるには、以下の要件を満たす必要があります。

- 【1】法人格を有している
- 【2】事業計画書を定めている
- 【3】2年間のフードバンク活動実績を有する
- 【4】外部専門家による諮問委員会の設置
- 【5】フードバンクガイドライン2013を遵守する
- 【6】年に1度、監査を受ける

フード・ドナー・アライアンス(FDA)

FDAは食品廃棄の代わりに食品寄付を行うことを促進し、その基準を設けるため創設されました。加盟メンバーは次の活動内容により、フードバンクが余剰食品と需要の適合という社会的価値のある役割を果たせるよう協力します。
【1】フードバンクロゴを使いフードバンクの認知度を向上、促進
【2】フードバンクの発展をサポート
【3】「2013食品寄贈ガイドライン」に署名





セカンドハーベスト・アジアについて

セカンドハーベスト・アジア (2HA) は、セカンドハーベスト・ジャパン (2HJ) の姉妹団体としてアメリカに設立された 501 (c) (3) 非営利団体です。2HA は、日本を含むアジアにおけるフードバンクの発展を促進するというミッションの下、日本の2HJの設立者であるマクジルトン・チャールズが中心となって、2010年4月6日にミネソタ州に設立され、現在アメリカからアジアのフードバンクの支援活動を行っています。これまでに、日本のフードバンク団体スタッフを招いて、アメリカの本格的なフードバンク団体 (San Francisco Food Bank、St. Mary's Food Bank Alliance) にて研修やインターンシップ事業を行ってきました。

また、それ以外にもシンガポール、マレーシア、香港、フィリピン、韓国、台湾等のフードバンク団体、ネットワークと交流を行い、アジア内のフードバンク活動の更なる発展のために寄与しています。2012年10月15日と16日には香港にてフードバンク会議、シンポジウムを開催しました。



セカンドハーベスト・ジャパン / Second Harvest Japan

〒111-0053 東京都台東区浅草橋4-5-1 水田ビル1F TEL:03-5822-5371 / FAX:03-5822-5372



2ndharvestjapan



@2ndharvestjapan

www.2hj.org

2HJ

検索